

2021.06.20.聖書預言に関する7つの大きな嘘

エド・ハインソン博士

カルバリーチャペル・カネオへのオンライン礼拝へようこそ。JD ファラグ牧師の代理です。今週の日曜日、ご参加いただいた皆様に感謝いたします。父の日ですからね。今日は、ゲストスピーカーをお迎えしています。ご紹介することを大変嬉しく思います。その前にお伝えしますが、(日曜日の朝は) 2つの礼拝をしていて、第一礼拝は「聖書預言・アップデート」第二礼拝は「聖書の学び」です。そして今日、私が言いたいのは、この素晴らしいゲストスピーカーの話聞くのが待ちきれないのです。リバティ大学の学長であり、教授であられる方なのです。そうなんです、皆さん。他にもいろいろなタイトルがあれ、彼が仰るには、それを言うとそれはただ、皆さんを怖がらせるだけだそうです。しかし、エド・ハインソン博士を歓迎しましょう。一拍手喝采ー

Mac 牧師、ありがとうございます。ハワイでの歓迎に勝るものはありません。抱きしめられ、愛され、給仕いただき、そして首に花をかけて下さり、説教中にくしゃみもできません。いや、ここにいること自体が喜びです。妻のドナも一緒です。今年の夏で結婚 55 年目を迎えます。一拍手ー でも、ちょっと早めにお祝いしています。1978 年に初めてハワイに来ました。私たちはまだ若く、3 人の小さな子どもたちを連れていました。そして、皆さんの美しい州に恋をしたのです。そして、長年にわたってここに来ることを楽しんできました。また、JD 牧師の代役を務められるのも特権です。彼は非常に良い説教者で、とても強い指導者です。彼が教壇を他の人に譲るということは、本当の信頼の証です。そのことに、とても感謝しています。ご紹介の通り、私はバージニア州のリバティ大学で教えています。リバティのキャンパスには、15,000 人の学生が住んでいます。世界最大のキリスト教大学で、オンラインは 10 万人が利用しています。学士、修士、博士の学位をオンラインで取得することができ、完全に認定されています。今では、法学部や医学部もあります。そのためには、直接お越しいただく必要があります。ネットで勉強した医者手術されたくないでしょうね。しかし文字通り、リバティのフルタイムの学生として、ここハワイの楽園に滞在しながら勉強することができます。もしあなたがお興味があられたり、家族の誰かが興味を持っておられたら、liberty.edu と入力してください。全体が表示されます。また私は、「King is Coming」のテレビ放送でスピーカーを務めるという特権もあります。ここハワイでは、日曜日の午後 6 時からの DayStar に出演しています。また、Dish and DirecTV のいくつかのチャンネルもあり、ハワイでは今日の午後 2 時から放送されます。他に、私たちのウェブサイト TheKingIsComing.com にアクセスして、ご覧になってみてください。私の資料はすべてそこで入手できますし、聖書の全体的な学びなどもあります。ご興味があれば、ご覧ください。

さて、今朝は 2 つのことをしたいと思います。第一礼拝では、「聖書預言に関する 7 つの大きな嘘」について話します。ちょっと強引なタイトルかもしれませんが、7 つの誤解、または表現の誤りと言えるでしょうが、しかしこういうことがあるかもしれません。あなたが誰かに「私はカルバリーチャペルに通っていて、牧師は携挙とキリストの再臨を信じています。」と言うと、「私はそうは思わない」と言われることが。そして、これらはよく言われる反論でしょう。だから、今日はそれに答えたいと思います。私たち全員のために。そして第二礼拝では、神が来られる時、私たちの人生に神の御力で、介入される時、について話したいと思います。この時間のものとは全く違う実践的な励ましのメッセージです。では、まずこれらをご紹介します。

質問は、聖書預言についてのこれらの 7 つの嘘、誤魔化したり、誤解したりしているものは何かという

ことです。

「エド、私たちの牧師は聖書預言の専門家です。」と皆さん言います。彼はこのテーマで世界中から見られています。私たちに、彼を分かち合ってくれた信徒の皆さんに感謝したいと思います。皆さんがここから発信されているからこそ、私は、アメリカ中、世界中でJDをいつも聞いている人に出会います。彼は文字通り何千人もの人々の人生に触れているのです。しかし事実、皆さんがそれらの視聴者に委ねているにもかかわらず、このような課題が提起されることもあるでしょう。

No.1：携挙は聖書に書かれていないと言う人。

「聖書の中を見てください。"携挙"という言葉調べてみてください。見つかりませんから。」

「"携挙"という言葉が聖書にはありません。したがって、携挙が聖書で教えられているのがどうやって分かりますか？」

No.2：サタンは将来縛られ、底知れぬところに投げ込まれるのですか？ サタンはすでにキリストの十字架の死によって縛られているのです、という人。サタンはすでに縛られていて、拘束は未来ではなく、すでに起こっているというもの。

No.3：私たちはすでに千年王国にいて、実際に教えている人たち。

私たちは、未来に千年王国を楽しみにしているわけではないのです。もう既に千年王国にいます、と。ある時、身体的な問題を抱えている若い女性と話したことがあります。彼女は誰かの言葉を聞いていました。彼女は礼拝後、私のところに来て、こう言いました。

「もし私たちがすでに千年王国に入っていて、これがすべて良い方向に向かっているのなら、皆さんで維持すればいいわ。何でもいい。」しかし、すでに千年王国を迎えていると信じている教会もあります。

No.4：神の将来の計画において、教会自体がイスラエルに取って代わると教える教会。言い換えれば、神はイスラエルの国と人々を祝福したり、地上に、文字通りの王国を将来的に建てるつもりがないという意味です。教会が王国であり、教会がイスラエルに約束された祝福を受るというもので、教会は実は新しいイスラエルというものです。

No.5：教会が来たる患難時代を経験すると教える人たち。患難時代前に携挙で教会は挙げられると信じる皆さん、彼らは言います。「いやいや、そうではない。教会は常に迫害、トラブル、困難、殉教に苦しむのです。間違いなく、教会は患難時代と裁きの時を経験する！」

そして No.6：こんにち、反キリストを見分けることができると信じている人。私は50年以上ミニストリーに携わっているので、反キリストが誰であるかについてのあらゆる可能性の狂った憶測を聞いてきました。いいですか、皆さんは、反キリストが誰なのかは知りたくないのです。反キリストの正体がわかったら、それはあなたが取り残されたということになります。それは良いことではありません。-(笑)-

No.7：携挙の日を予測できるという人。このパターンに沿って、これらの節を足して、数学的な計算をすると、私たちは携挙がいつ起こるのかを見つけ出せるのです、と。繰り返しになりますが、私は長い間この仕事をしています。いろんな日付を聞きました。1972年、1975年、1988年、1992年、2000年、2011年とかも。携挙がいつ起こるかは誰にもわかりません。いつでも、どんな時でも起こりうることです。ですから、時間は誰にもわからないのだから、時間を推測しようとして時間を無駄にするのではなく、いつイエスが来られても良いように、いつも準備しておくのです。皆さん、ちゃんと教えられていますね。祝福を。

では、それぞれについて具体的に取り組んでいきましょう。

No.1: "携挙" は英語の聖書にはないという反論。聖書に目を通すと、"携挙/rapture" という言葉は出てきません。だから、なぜあなた方は聖書に携挙があると信じるのか？ さて、聖書には載っていない言葉がいくつかありますが、概念は明らかにそこにあります。例えば、「三位一体」という言葉は聖書にはありません。しかし、私たちは神の三位一体を信じています。父、子、聖霊は、それぞれの属性を持っています。私たちは三位一体を信じていますが、「三位一体」という言葉は聖書にはありません。聖書には「日曜日」という言葉はありませんが、イエスが日曜日に死からよみがえられたから私たちは主の日、日曜日に集まっています。週の最初の日であり、日曜日すべての教会の礼拝は、復活のお祝いです。しかし、「日曜日」という言葉自体は聖書にはありません。「再臨」という言葉は、聖書にはありません。しかし、どのキリスト教宗派も再臨を信じています。イエスは、弟子たちと別れるとき仰いました。「私は天に帰って父の家に行くのです。私が行って何をするのでしょうか？」「もう一度来て、あなたを自分のもとに迎えます。」ですからバプティスト、カトリック、メソジスト、長老派、ルーテル派、ペンテコステ、カリスマ派、誰もが再臨を信じていると言っています。さて、主の再臨は聖書には書かれていません。実は、「聖書」という言葉は、聖書の中にはありません。が、私たちは聖書を信じている、などなど言います。ここがポイントです。問題は、英単語ではなく、コンセプト（概念）です。概念が聖書で教えられている場合、それを定義したり、説明する言葉は、英語の単語があってもなくても有効です。さて皆さんは、携挙の主要な箇所の一つである「第一テサロニケ 4 章 16 節」に大変親しんでおられます。

「...そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、...英語の聖書では、「携挙/rapture」という言葉は、このように定義され、翻訳されています。引き上げられ、連れ去られ、掠め奪われ。...空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることになります。」(第一テサロニケ 4:16-17)

この箇所では概念が明確に教えられています。実は、聖書には「携挙」という概念が脈々と記されています。旧約聖書の創世記に登場するエノクは、神と共に歩んでいましたが、いなくなりました。神が彼を生きのまま天国に連れて行かれた、携挙されたからです。エリヤは生きのまま、火の戦車で引き上げられました。携挙されました。旧約聖書には、少なくとも 2 つの携挙があるということです。そして新約聖書の中には、さまざまな箇所で携挙に関する記述があります。英単語の"引き上げられる/caught up"は、ギリシャ語の "ハルパッツ/harpazo" を翻訳したものです。さて、新約聖書はもともと何語で書かれていたのでしょうか。ギリシャ語です。ハルパッツは、取り去られる、掠め奪われるです。それは何かを盗む、突然、素早く奪うという考えです。イエスは、ご自分が何のように来ると仰いましたか？ 盗人が夜来るように、突然の瞬間、キリストの花嫁を奪い去られるのです。「第二テサロニケ 2 章 1 節」です。携挙のアイデアがこう訳されています。「主のみもとに集められることに関して、」英語の "集められる/gathering together" という言葉は、ギリシャ語の偉大なフレーズ「エピスナゴゲ」の翻訳です。今、その言葉を少し考えてみてください。スナゴゲは、何かの単語に似ていますよね。シナゴグ/会堂。私たちは共にシナゴグであり、空中で主にお会いするための群れとして引き上げられるのです。ですから本当の論点は、携挙があるかどうかではありません。携挙は、なければならないのです。しかし、携挙はいつ起こるのでしょうか？ 残念なことに、患難時代前携挙を信じていない人はこう言うでしょう。「携挙は絶対にありません。携挙は、聖書には書かれていません。」違います。携挙は、再臨の約束と同様に、明確に聖書に書かれています。教会が引き上げられ、死者がよみがえり、生きている人が連れ去られるのかどうか

ではなく、それがいつ起こるかなのです。それは、議論や話し合いの問題なのです。だから、誰かが信者のあなたに、「ああ、携挙は聖書にはない。」と言え、いえ絶対的にあります。もしそうなら、テサロニケ人への第一の手紙 4 章を聖書から破って捨ててしまわなければなりません。その節で明確に教えられています。真のクリスチャン、真の信者であっても、意見が異なることがあります私の友人の牧師は、いわゆる無千年王国説の人です。彼は、患難時代前携挙があるとは信じていません実は私、彼の教会の礼拝に出席したことがあるんです。彼は、すべてが携挙に反対する説教をしていました。説教の最後に彼が言った言葉は、「だから、私たちは携挙は決して起こらないのです。私たちが待ちわびなければならないのは、困難、困難、さらなる困難だ。」そして、自分の聴衆が大声で嘆いていました。－(笑)－さて、長老派を嘆かせるには、本当に強く叩かなければなりません。彼らはうめき声を上げました。後ろに立ってこう叫んでみたくなりました。

「ですから、これらのことばをもって互いに励まし合いなさい。」(第一テサロニケ 4:18)

－(笑)－しかししませんでした。－(笑)－ 礼拝後、私は彼と話をし、こう言いました。

「ウィルソン、あなたも私も、携挙があるはずだと信じているじゃない。キリストにある死者がよみがえり、それから生き残っている私たちが、引き上げられる。ただ、それがいつ起こるかについては意見が分かれるけど、あなたはそれを終わりの時に置く。私はそれを患難時代の前に置く、そういうことじゃないか。」亡くなると、信者の霊は天国に行くと共にあります。しかし、体はお墓です。そして場合によって、時の流れの中で塵や灰になってしまう。しかし、携挙の時には、御霊が戻ってきて、肉体は復活し、御霊と再結合する。その時に生き残っている者は、体も魂も霊も、栄光の体に変えられて、主とそして、よみがえった人たちと一緒に会うのです。それが、教会と信者の祝福された希望です。そのタイミングは人によって考え方が異なるかもしれません。

患難時代前/御怒り前なのか？

患難時代中間点なのか？

患難時代の終わりなのか？

それとも、患難時代がないのか？

それとも、教会時代全体が患難時代なのか？

タイミングについては様々な意見がありますが、事実はそうではありません。携挙はなければならなくそれが大患難前携挙だと確信しています。理由は、教会は何のために召されていますか？ 御怒りではなく、救いを得るためだからです。患難時代の裁きは、子羊であるキリストの御怒りであり、父なる神の御怒りであると、聖書で明確に定義されています。教会は神の御怒りの対象ではありません。イエスは自ら釘を打たれ、十字架かかって下さり、私たちのために神の怒りを受け止めてくださいました。そして叫ばれたのです。「完了した。」(ヨハネ 9:30)

私たちの罪に対する神の怒りを背負ってくださいました。罪のない救い主が私たちの代わりに死んでくださったのです。ハレルヤ！ 何という救い主でしょうか！！！！

イエスがあなたを愛するほど、誰もあなたを愛しません。

イエスがしてくださったようには、誰もあなたの罪の為には死にません。

イエスがされたように、誰も死からよみがえられません。

そして、彼のように、あなたのために再来する人はいません。

「ヨハネの福音書 14 章」、イエスは弟子たちに仰いました。

「私は父の家に帰ります。わたしが行って、また来て、あなた方（信者）をわたしのもとに迎えます。」
その中で7回、「あなたがた」という代名詞を使っています。ヨハネの福音書14章でイエスはその約束をされたとき、ユダは不信心な弟子の一人で、既に部屋を出て行きました。そしてその約束は、11人の信者にのみ与えられたのです。携挙の約束は、すべての信者のためのものです。イエスは再び来られます。もしあなたが、イエスを救い主として知っていれば、彼はあなたのために来られます。

さて、今朝の説教に協力してほしいのです。自分の右隣と左隣、おそらく一緒に来たであろう人の目を見て言ってください。「イエスは再び来られます！」 会衆：「イエスは再び来られます！」 そしてもう一つ、彼らに質問をしてみてください。

「彼はあなたのために来られますか？」 会衆：「彼はあなたのために来られますか？」

良い教会だということがわかります。何人かの人が「はい！」と声を上げましたね。自信を持って「はい」と答えることが必要です。「そう願います」ではありません。(笑) あなたはそう願う？ それは十分ではありませんよ。私は、できる限りのことをしているのです。ベストを尽くしても十分ではありません。神は、この罪のない救い主があなたの罪のために十字架にかかって、死なれたとき、ベストを尽くされました。それを越える物など何也没有ありません。

No.2 : サタンは既に、十字架の御力によって縛られている？

これは無千年王国説、または後千年王国説の先生方の一般的な見解です。無千年王国説というのは、反千年王国の意味です。彼らによると、文字通りの千年王国は存在しないというもの。後千年王国説は、千年王国は来るが、サタンの拘束がすでに起こっているからイエスは千年王国の終わりまで戻ってこないというものです。そして彼らは、「第二ペテロ2章4節」のような聖句を挙げるでしょう。

「神は、罪を犯した御使いたちを放置せず、地獄に投げ入れ、暗闇の縄目につないで、さばきの日まで閉じ込められました。」(第二ペテロ 2:4)

もしくは、イエスが「ルカの福音書10章18節」で仰ったこと。イエスは彼らに言われた。

「サタンが稲妻のように天から落ちるのを、わたしは見ました。」(ルカ 10:18)

そのサタンはすでに落ちた。さて聖書を読むと、サタンは光の御使いとしてあるいは、礼拝の指導者でも何でもいいのですが、元々天にいた地位から転落しました。サタンは落ちましたが、まだ底知れぬところに縛られているわけではありません。それが起こるのは、まだキリストの再臨の後です。問題は、キリストがサタンを縛ることができるのかどうかではなくいつサタンを縛るのか？です。イエスは、マタイ12章28節でこう仰いました。

マタイ12章

28 しかし、わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです。

そして、次の節で仰るのは、

29 まず強い者を縛り上げるのでなければ、強い者の家に入って家財を奪い取ることが、どうしてできるでしょうか。縛り上げれば、その家を略奪できます。

彼らはこの節を見て、イエスは初臨で、私たちの罪のために死に、私たちの代わりに死に、サタンの力を打ち負かすために来た。だから、彼らの考えによれば、サタンはすでに縛られていると言います。そして、それを信じて教えている教会はたくさんあります。問題は、彼らが、キリストの初臨と再臨を区別していないことだと思います。イエスは、初臨では何をされたのでしょうか？ サタンの霊的な敗北。そうで

す、しかし最終的な、物理的に彼が縛られるという敗北ではありません。なぜなら、ヨハネの黙示録 19 章には、イエスがハルマゲドンの戦いに戻って来られるときに、獣（反キリスト）が捕らえられ、一緒に偽預言者が捕らえられこの二人は火の池に投げ込まれます。そしてイエスは、サタンを底なし沼、奈落の底に落とされます。どの翻訳も同じ意味です。（黙示録 19：20 参照）

そして彼を閉じこめ、これ以上諸国の民を惑わすことできないように、千年間封印されます。（黙示録 20：3 参照）

ですから、黙示録 19 章と 20 章を順番に読むと、イエスがまず帰って来られ、ハルマゲドンの戦いに勝利し、獣と偽預言者を倒し、生きたまま火の池に投げ込まれます。それから、サタンは奈落の底に閉じ込められ、鍵をかけられ、封印されていて、出られなくなります。これはいつ起こるのか？ ハルマゲドンの戦いの後、獣と偽預言者が火の池に投げ込まれ、サタンが千年の間、奈落の底で縛られる時です。そして、彼がそこに閉じ込められると 一次のスライドでご紹介します。もう出られないし、千年の終わりに解放されるまで諸国を惑わすこともできません。だから、封印がその順序で行われる一連の流れなので、イエスはまだ再臨されていなく、獣と偽預言者はまだ倒されていないし、ハルマゲドンの戦いも起こっておらず、サタンはまだ奈落の底に縛られていないのは明らかです。このリストを見ていくと、ハルマゲドンの戦いは起こっておらず、獣と偽預言者はまだ火の池にいないことがわかります。従って、サタンはまだ奈落の底にいないのが分かります。千年王国はまだ始まっていません。私たちはまだ、千年王国を迎えているわけではありません。問題は、サタンがこんにちすでに縛られているのか？ ですが、なぜ人々はまだ騙されているのでしょうか？ 千年王国の間、サタンが諸国を欺けないのであれば、なぜ今、国々は欺かれるのでしょうか。なぜ、まだ欺瞞があるのか？ なぜまだ悪魔の活動があるのか？ 私は実際に、善意の牧師たちから

「サタンは縛られていて、本物のサタンの活動の証拠を見たことがないです。」と言われたことがあります。「あなたは私の親戚に会ったことがないのでしょうか。」—(笑)—

私はクリスチヤンの家庭で育ったわけではありません。私は、全く信仰心のない、ワイルドな家庭で育ちました。そして、子どもの頃、母が言っていたことを思い出します。

「今週末、叔父さんと叔母さんが来るのよ。」そして私は言いました。

「それはよろしくない。酔っぱらって店を荒らしてしまう。いつも制御不可能だからね。」

こんにち、サタンが地球上に生きている証拠はいくらでもあると思います。「ああ、お義母さんだよ。」と仰ったり。そう、とにかく、—(笑)—

では、こんにちのサタンの活動について、聖書の例を考えてみましょう。

第一ペテロ 5 章

8 身を慎み、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、吼えたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。

人々は、彼はすでに拘束されていると言いますが、その節を見せるとこう言います。「まあ、彼は長い鎖につながれています。」私は、それって世界中繋がってるんだなと思います。—(笑)—

パウロは、「第一テサロニケ 2 章」で語っています。「サタンが、彼の福音伝道を妨げた。」つまりパウロの時代、十字架の後にサタンは生きていたのです。

「第二コリント 12 章 7 節」では、「神の民と戦っている」と書かれています。パウロも彼のことをこう呼びます。

「空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊。」(エペソ 2:2)

しかしここに、それを決定的にするイエスの実の兄弟からの一節があります。

「ヤコブ4章7節」、キリストの兄弟ヤコブは何と言ったのでしょうか？

「...悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。」

彼は信者にこれを書いているのです。悪魔がすでに束縛されているのなら、なぜ悪魔に抵抗しなければならないのか？ いいえ、悪魔は地球上で健在です。私たちは、残念ながら彼の活動の証拠を常に目にしています。

No.3:「すでに千年王国に入っている」という反論。誰がそんなことを信じているのかと言うと、無千年王国説、または後千年王国説の先生方は、教会時代が千年王国だと本当に信じています。千年に一度の祝福はすでに始まっているそうです。ライオンと子羊が静かに一緒に寝ていますか？ 世界は平和ですか？ そして、欺瞞はないですか？ 問題は、彼らが教会を、地上の神権的な王国と同一視していることです。神権統制とは、神の支配のことです。大統領や指導者の選挙があるたびに、私はいつも聞かれます。

「もしイエスがここにいたら 誰に投票するのでしょうか？」その答えは簡単で、「誰にも投票しない」です。イエスが王であり、彼が指導者です。素晴らしいことです。しかし、私たちはまだそこにいませんが。だからこそ、私たちはまだ神権国家ではなく、民主国家なのです。さて、教会がすでに千年王国に入っているという考えは、西暦400年代にさかのぼり、聖アウグスティヌスによって始まりました。アウグスティヌスの時代、イスラエルはもはや、現実の国家としては存在していませんでした。彼らは破壊され、散らされ、排除されていました。アウグスティヌスには、彼らが永遠に約束の地に戻ってこれないように見えました。教会の敵であったローマ帝国は、コンスタンティヌスのもとである程度改宗し、キリスト教っぽくなっていました。つまり、もはや敵ではなかったのです。アウグスティヌスは、イエスが戻られ世界の王国を滅ぼし、地上にご自分の王国を建てるという、この前千年王国説が、本当に間違った考えで、私たちはすでに王国にいる、王国とは本質的に霊的な性質だと述べました。

A.D.451年のエフェソス公会議で、前千年王国説が非難され中世のカトリック神学では前千年王国主義があまり見られませんでした。誤解した神学者たちによって異端として断罪されたからです。彼らは、千年という時間は象徴的なものであり、教会歴史の中で暗黒時代と呼ばれているものは、教会が政治的に、ヨーロッパの大部分と中東の一部を支配していた教会の栄光の時代であったと主張しました。彼らは、それが千年の恵みだと言っていたのです。教会の目的は、キリストの王国を地上にもたらすことだと。問題は、無千年王国説と後千年王国説によると、教会が王国をもたらさなければならないということです。無千年王国説は、教会を霊的に取り入れるのです。後千年王国説は、王国を文字通り地球上にもたらします。いろいろな方法があると思います。A.D.325年にコンスタンティヌスがキリスト教に改宗し、キリスト教を合法化した際に、彼らは後に神聖なローマ帝国として知られるようになりました。歴史家はしばしば、神聖なローマ帝国でもなければ、帝国でもないと言っています。にもかかわらず、それが主に中欧を中心とした名称です。カトリックの神学では、教皇は王国の鍵を持っていて、文字通り、彼の影響力によって地上に王国をもたらすことになっています。中世では、それは軍隊を使って行われることが多く、それは軍事的に行われることが多かったのです。現在では、交渉などで行われることもあります。改革神学では、キリスト教徒が社会の法制度を再構築し、キリスト教的な一連の法律を導入し、それを世界に施行すれば、地上にキリストの王国ができるという考えです。

「どうやってそれをするの？」と尋ねたいものですが。そして、カリスマ派後千年王国論は、世界を支配

すると宣言することで王国をもたらしめます。自分たちに権限があり、あなたがたにはない、など。また福音派サークルは、終わりの日に大リバイバルを起こして王国をもたらしそうとしています。影響力のある法律が重要なのです。クリスチャンとして社会に影響を与えることは重要なのです。リバイバルのために祈ることも、リバイバルのために働くことも、すべて重要なことですが、私たちは、前千年王国論、大患難前の終末論において、誰かが来られるまで、文字通りの王国を地球にもたらしすることはないと考えています。王が、来られるまでは、王が戻られたら、王国なのです。それまでの間、私たちは世に霊的な影響を与えるためここにいるのです。私たちは誰かにクリスチャンになることを強いるつもりはありません。私たちは、キリスト教とは、聖霊の力によって救われ、生まれ変わり、贖われ、変えられたとき、世とはどのようなものか、人生とはどのようなものか、そして人生がどのようなものになり得るかについて、より優れた物語を語っているということを精神的、知的、霊的、道徳的に人々に説得しようとしているのです。課題としては、まずサタンを捕らえなければなりません。それから、文字通りの地球上に王国が築かれるのです。それはイエスが戻られるまで起こりません。

「ダニエル2章」人間の王国を表す様々な金属を使った像が石/神の国によって破壊される一節です。これは初臨ではありません、再臨です。全てがちりの中崩れ、吹き飛ばされてしまうからです。しかし、まだ起こっていません。人間の政府は今でも存在し、神の権限で存在しているのです。王国がすでに到来しているのであれば、なぜいまだに世界政府が存在するのでしょうか？

そして「使徒の働き1章」で、イエスが天に昇っていかれるとき、弟子たちがイエスに尋ねます。「主よ。イスラエルのために国を再興してくださるのは、この時なのですか。」(使徒 1:6)

イエスは彼らに言われた。「いつか、どんな時とかいうことは、あなたがたの知るところではありません。それは、父がご自分の権威をもって定めておられることです。(使徒 1:7)

つまり、イスラエルが決して王国を手に入れたいとは仰っていないのです。彼が仰りたいのは「今ではない。」ということです。つまり重要なのは、王がいなければ文字通りの王国は地上に存在しないということです。霊的な王国はあります。私たちが天の御国の市民です。私たちには、私たち全員を結びつける天の市民権があります。ハワイに来てよかったと思うことのひとつは、イエス・キリストを信仰している人々が集う教会では、人種や社会的、民族の違いという背景にかかわらず、キリストを介して自動的に結びつきが生まれることです。ここには素晴らしい多様性のある人々がいて、彼らは互いに愛し合い、共に働き、共に奉仕し、互いに理解し合っています。なぜでしょうか。なぜなら、天の御国で私たちは皆、神の家族の一員になるのです。私たちはこの地球上で、霊的にすでにその家族の一員だからです。私たちは、いわば天の王から命令を受けているのです。イエスが、エルサレムでダビデの王座に座り、文字通り地球上におられるわけではありません。こんにちの世界を鉄の杖で支配されます。それは、まだこれからの話です。

No.4: 教会がイスラエルに取って代わるという考え方。「置換神学」と呼ばれることがあります。教会が地上の文字通りの神の国であるという見方をすれば、教会は新しいイスラエルとなるというもの。私たちは神のイスラエルであり、神に選ばれた特別な民で、これはユダヤ人の民族とは何の関係もなく、神は、イスラエル民族に対する将来のご計画はないという考え方です。イスラエルの民が、約束の地に戻ってきたということは、全世界のユダヤ人の半分が、イスラエルに戻ってきたということです。彼らは聖書預言とは関係ないと言うでしょう。聖書預言には常に両極端があります。すべての出来事、すべての問題、すべての危機に預言的成就を見出したいという極端な人がいます。「聖書預言だ、聖書預言だ、聖書

預言だ」と。もう一つの極端な例は、明らかなものに目を背ける事です。「こんにち、終末の時に近づいていることを示すようなものは何もない」と。「イスラエルが約束の地に戻っているよ!」「それは問題ではない、それは神が祝福するイスラエルではない」と。「じゃあ、中東が危機に瀕しているのは?」

「まあ、彼らはなんとかなるさ。」この数年間、彼らはそうになってなかったし、おそらくそうなりません。大量破壊兵器がすでに発明されていて、全世界を吹き飛ばすことができます。こんにちではないことを願い、なんともそういうことです。一方の極端な方は、何も見えていないわけで、もう一つの極端な方は、すべてを見つけないかと思うことです。新聞から見始めて、それを無理やり聖書に当てはめてはいけません。まず、聖書から始めるのです。これらのことについて、聖書は何と言って教えているのか? それから、ニュースの中に関連性を見出すことができるのか? です。そう、非常にわかりやすいつながりがたくさん見つかったと思います。特定の国がイスラエルに対して、より過激な立場を取り続けていることなどの事実が、終わりの時に近づいていることを物語っています。しかし置換神学では、イスラエルのアイデンティティを教会の象徴に変えています。新約聖書の著者は決して意図していません。問題は、神がイスラエルに与えた無条件の預言と条件付きの預言を混同していることです。何が違うのかと言いますと、創世記 12 章と 15 章で、神はアブラハムに無条件に語られました。

「わたしは、あなたの子孫にこの地を与える。」(創世記 12:7)

それは、「ここが約束の地である」という無条件の約束でした。しかし、「申命記 11 章」では、モーセは彼らにこう言います。「その土地で祝福を受けようとするならば、あなたがたは神の律法に従わなければならない。」これらは、あなたがたが従順であれば、その土地で受けられる祝福であり、逆に従わない場合、あなたがたに降りかかる呪いである。一時的にその土地から追い出されることもある。そして悔い改めて戻ってくるなら、回復させてもらえることができる。つまり真の疑問は、神はイスラエルを見捨てられたのか? です。神は彼らとの関係を終わらせ、彼らがキリストを拒絶したなどの理由で見捨てられたのか? ユダヤ人だった使徒パウロは、クリスチャンになりました。彼は過去にキリスト教徒を迫害していたのです。復活したキリストに会ったと確信したから、そのエネルギーを使って福音を広め始めました。

「ローマ人への手紙 11 章 1-11 節」で、パウロは疑問を投げかけています。

「神はご自分の民 (イスラエル) を退けられたのでしょうか。」(ローマ 11:1)

その答えは? 「決してそんなことはありません。」ギリシャ語文では非常に強いです。絶対にない! 全くもってない! という感じです。恵みの選民として、常に信仰に辿り着くユダヤ人の残りがいます。彼らは躓いていませんか?

「それでは尋ねますが、彼らがつまずいたのは倒れるためでしょうか。」(ローマ 11:11)

パウロは再び言います。

「決してそんなことはありません。」

パウロは、究極的にいつの日か、すべてのイスラエルが救われることを願っています。救い主が戻って来られるときに、彼らにも救いの時が訪れます。新約聖書を読んでいると、明らかに教会とイスラエルは同じではありません。新約聖書は、教会を「キリストの花嫁」と表現しています。一方、イスラエルは救世主キリストの母です。教会はキリストによって建てられました。イスラエルはモーセに導かれました。教会はペンテコステの時に生まれました。イスラエルは出エジプトの時に誕生しました。教会時代は、「恵み」に重点が置かれています。旧約聖書のイスラエルでは、何に重点を置いていたのでしょうか? 律法

です。教会には天の市民権があります。地理的な条件に左右されることはありません。民族に左右されることはありません。イスラエルには、約束の地と結びついた地上の市民権があります。新約聖書の信者にとって、私たちは皆、天の御国の市民です。私たちは皆が王のもので、全員同じ家族の兄弟姉妹です。さて、聖書全体を読むとなると、この秋のリバティ大学での私の課題の一つは、旧約聖書の学びを、1クラス400人の学生に教えることです。18歳の生徒に。やってみてください。ところで、この秋に大学に入学する新生は、2003年生まれです。彼らは、9.11後に生まれたのです。彼らにとって、9.11は古代歴史なのです。誰かがあなたに、第二次世界大戦の話をするようなものです。今の世代はトースターを知らないんです。この世代は、電話がダイヤル式だった時代があったのを知らないなどと言っています。彼らはそのようなものを全く見たことがありません。彼らは賢く、技術的にも優れています。しかし批判的で皮肉屋です。あなたの話が本当に真実なのかを知りたいのです。彼らは、あなたの言葉などではなく、あなたの人生にイエスが現れているのを見たいのです。さて、新約聖書で教会とイスラエルが、2つの異なるものなのは明らかだと思います。神は、イスラエルにご計画があられ、神は、教会にご計画があられます。神は最終的にイスラエルを改心させるご計画をお持ちです。イエスが、イエシュア=ハ・マシアック、メシア（救世主）であることを理解させるためです。そして、こんにちイスラエルでは、信じられないような速さで、人々が信仰に辿り着いています。何が起きているのか、ワクワクしますね。20世紀初頭、イエスがメシアであると信じていたメシア主義のユダヤ人は、たった4家族と言われていました。現在、その数は約2~3万です。神はそこで動いておられます。まだまだやらなければならないことがたくさんあります。たくさんの方が起こっています。

No.5：問題は、教会が患難時代を経験するという人々。後千年王国説で、歴史的前千年王国主義と呼ばれることもあります。彼らは、教会は常に迫害や殉教を受けてきた、なぜ教会が患難を免れるのか？と言います。その答えは本来、次のような質問であるべきだと思います。「なぜ教会が 神の御怒りを受けるのか？」

第一テサロニケ 5章

9 神は、私たち（信者）が御怒りを受けるようにではなく、主イエス・キリストによる救いを得るように定めてくださったからです。

私たちは神の御怒りを受けるに値するのに、神の御怒りを受けることはないのです。患難時代にキリストの花嫁を叩きのめすことはありません。その花嫁は、天国の婚姻へに連れて行くのです。

「それじゃ意味がないと思うんですよ。私にはプロテスタントの煉獄のように聞こえますが。彼女の罪を打ち消して、それから天国に入れるのです。」と仰る。－(笑)－

なぜ患難時代が御怒りだと思うのですか？ なぜなら、ヨハネの黙示録の封印の裁きは、子羊の怒りと呼ばれているからです。鉢の裁きは神の御怒りです。その期間、教会はどこにいるのか？ 花嫁（教会）は、天で結婚式です。キリストの花嫁である教会は、イエスと一緒に凱旋する前に、結婚するため、まず携挙で引き上げられなければなりません。黙示録で象徴的に描かれている女は、キリストの母であるイスラエル国家の象徴です。この女はキリストの花嫁ではありません。彼女はキリストの母です。願わくば、母親と結婚しないでほしい。それは、まったく別の象徴です。そして、生き残った少数が患難時代の聖徒となるのです。しかし、私は特に、神があなたをととても愛しておられるから教会が患難時代を経験することはないと信じます。私たちの罪のすべてを御子に負わせ、私たちの代わりに、彼に御怒りを注がれたのです。私たちが自分ではできないことを、イエスがやってくくださったのです。そして、イエスが信者に与

えるご命令は：「私が来るために、目を覚ましていなさい。」(マタイ 24：42 参照)

「私が来る準備をしなさい。」反キリストが来るのを見張れとは仰っていません。患難時代が始まるのを見張り、私が来るのを見張りなさい。私が来る準備をしなさい。私が来るまで奉仕を続けていなさい。クリスチャン生活のバランスがあります。上に目を向けて、イエスが来るのを待ちながら生きる。「今日かもしれない！！」と。しかしそれまでの間、私は神に正しい心を持っていなければなりません。預言は、未来に何が起こるかだけではないからです。それは、この先に、誰が来られるかが重要なのです。イエスが来られます。彼が私のために来られるという確信を持ち、それまでの間、私は地に足をつけて、主が来られるまで、主に仕える働きをし続けなければなりません。「ルカの福音書 21 章 36 節」でイエスが語っておられます。

ルカの福音書 21 章

36 あなたがたは、必ず起こるこれらすべてのことから逃れて、人の子の前に立つことができるように、いつも目を覚まして祈っていなさい。

「黙示録 3 章 10 節」で、彼は教会に約束しておられます。

黙示録 3 章

10 あなたは忍耐についてのわたしのことばを守ったので、地上に住む者たちを試みるために全世界に來ようとしている試練の時には、わたしもあなたを守る。

そして、「第一コリント 15 章 51 節」

「私たちはみな眠るわけではありませんが、みな変えられます。」(生きている者と死んでいる者の携挙)ではさっと最後の 2 点をします。

No.6：私は、反キリストを特定できると思う、というもの。「あ～本当に？幸運を祈るよ。」それは何世紀も前から行われてきたことです。イギリスのチャールズ皇太子が反キリストになると主張するある男に何ヶ月も付きまとわれたことがあります。今から 25 年ほど前のことです。そして私は、「いや、イギリスの王様のことですか？ 英国の王、あの人ではありません。」

男性：「彼は、英国の王になって反キリストになるのです！」私：「彼には出来ないよ。」男性：「なぜ？」私：「彼の母親が死んでないから。」あのお婆様はまだ生きてるんだから。あの人王になることはないでしょう。もしなれたとしても、彼は年を取りすぎています。反キリストについては、さまざまな憶測が飛び交っています。ネロだ！ネロではありませんでした。シャルルマーニュだ！シャルルマーニュではありませんでした。ナポレオン！ムッソリーニ！ヒトラーだ！ヒトラーならあり得そうでしたが、彼ではありませんでした。スターリンだ！ゴルバチョフだ！額にあざのあるロシアの指導者を思い出してください。獣のマークだと人々は言ってました。チャールズ皇太子、ビル・クリントン、ヒラリーは偽預言者だ！ロナルド・レーガンが反キリストであると言った人がいました。古き良きロナルド・レーガン？なぜ？彼の 3 つの名前にはそれぞれ 6 文字あるからだ！ロナルド・ウィルソン・レーガン 666 違います。それはジョージ・ブッシュであり、彼は何も知らないだけです。バラク・オバマだ！まだ誰もバイデンだとは言っていない。バイデンだと思おうと言った人はいませんでした。あなたが投票しなかった人を、いつも反キリストだと思のです。それはいつもアメリカの大統領を言いますが、ブラジルを選んでみたら？または他の誰かを探しては？ —(笑)—

反キリストが誰であるかは、携挙の後でなければわかりません。なぜそう思うのか？ JD 牧師が教えてくれたでしょ？ 第二テサロニケ 2 章です。

「不法の者（反キリスト）がその定められた時に現れるようにと、今はその者を引き止めているものがあることを、あなたがたは知っています。」（第二テサロニケ 2:6）

「不法の秘密はすでに働いています。ただし、秘密であるのは、今引き止めている者が取り除かれる時までのことです。」（第二テサロニケ 2:7）

「（それから）その時になると、不法の者が現れますが、」（第一テサロニケ 2:8）

引き留める者は、中性的な「何」と、男性的な「彼」の両方として認識されています。それは、聖霊の洗礼を受けた者に聖霊が働いているからに他なりません。聖霊が内住する生ける神の教会です。今や、ある人たちは教会を批判しこう言います。「教会はサタンを阻止するほど強くはない。」さて、サタンを差し止めるほどの強さを持つものは他にありますか？ 法律？人間の政府？どうでもいいけど、善意とか？違います。サタンを抑えることができる力を持っているのは、神ご自身です。教会に聖霊の力が働き、悪に立ち向かうことが今は難しくなっています。携挙の5分後には、どのようになっていると思いますか？すべての信者がいなくなり、地球上が大混乱に陥ったら？ 私は、教会携挙によって引き留める者が取り除かれると、テサロニケ人への手紙2章の出来事の流れは、背教か、出発か、あなたが決めたそのどちらかが先です。その後、引き留める者が取り除かれます。そして、反キリストが現れるのは、キリストの日の前、イエスがハルマゲドンの戦いに勝利するために来られる時。反キリストが登場するのは、携挙の後、引き留める者が取り除かれてからです。社会には、反キリスト的な人々、反キリスト的な指導者、反キリスト的な影響力など、信者が立ち向かわなければならないものがあるかもしれません。しかし、その大物はまだここにはいません。

そこで質問：反キリストは今、生きているのか？ その答え：必ずしもそうではありません。彼はこんにち、存在しうるか？ はい。もし今から数分、数ヶ月、数年後に携挙が起こるとしたら彼はすでに生きているかもしれません。私たちには、彼が誰なのかわからないだけです。今、生きていなければならないのか？ いいえ。誰もが彼が誰であるかを確実に知っているのですか？ いいえ。反キリストの正体を知っていると言っている、ラジオやテレビに出ている人に騙されてはいけません。私はテレビに出ていますけど。いいえ、あなたには分からない。それは、取り残された人たちが考えることです。あなたは、反キリストの正体は知りたくないでしょう。それは、取り残されるのを意味するからです。

そして当然ながら、No.7：携挙の日を予測できるか？

人々は、信者が特別な知識を持っているなどと主張しようとするでしょう。

イエスは夜の盗人のようにやって来られます。（第一テサロニケ 5:2 参照）

またイエスご自身が、「**マタイの福音書 24:36**」で仰っています。

「ただし、その日、その時がいつなのかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。」

つまり、サタンは携挙の日を知らないということです。サタンは、落ちた/墮_____何ですか？ 天使/御使いです。彼は知りません。彼の手は、神の主権によって縛られています。サタンが誰かに憑りついて反キリストとなる動きをするのは、引き留める者が取り除かれてからです。ですから、私たちは何をするのか？ イエスが来られるのを見張り続けるのです。天からの神の御子を待ち続けるのです。もし誰もその時を知らないなら、私たちはいつでも準備ができるようにしなければなりません。私たちは、いつでもイエスが来られることを期待して生きるのです。今、自分が聖歌隊に説教をしていることに気付いています。今朝言われた通り。皆さんは、主を愛し、主の到来を願う活気ある信者の教会です。使徒パウロが言っています。

「あとは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。私だけでなく、主の現れを慕い求めている人には、だれにでも授けてくださるのです。」(第二テモテ 4:8)

キリストの来臨についてどのように考えているかに関わらず、そのことが、その来臨を愛し、彼を愛し、彼が来られるのを楽しみにさせるべきです。イエスは再び来られます。しかし、彼が来られるとき、彼は私たちに何を見つける必要があらわれますか？ 忠実で、準備していて、待ちわび、見張り、奉仕していることです。あなたの住んでいる世界を変えるために、神があなたにしてほしいことは何でしょうか？

今、この部屋には、聖霊降臨し、教会が発足したあの日、あの上の部屋にいた人々よりも、多くの人々がいることが分かります。そして、彼らの証がやがて世界を変えていったのです。

もし私たちが、イエスが再び来られることを期待し、仕え続けることを100%約束するなら、神は今、皆さんの人生をまとめて素晴らしいことをしてくださるでしょう。そして、すべての神の民が言います。アーメン。祈りましょう。

天の父なる神様、今朝あなたの前にひれ伏し、あなたをお願いします。あなたの到来を理解している私たちに安心感を与え、まだ理解していない今後の信者である人々へ忍耐を与え、そしてイエス様が携挙で来られる前に、その信仰を持つ必要のある、まだ信じていない人々に、真の伝道の心を与えてくださいますように。今日、私たちが祝福を受けるべきところで祝福を与えてください。励ましが必要なところで励ましてください。確信が必要なことに、確信させてください。挑戦すべきところで挑戦させてください。そして、今日ここにいるすべてのお父さん方に特別な祝福を祈りたいと思います。彼ら一人一人が、あなたを知り、あなたに仕える素晴らしい特権を持っていることに気づくことができますように。そして、彼らのミニストリーは、家庭で、妻と、子どもたちと共に始まるのです。そしていつの日か、子どもたちが成長し、「本当のクリスチャン家庭の影響を受けたから、彼らは祝福されているんだ。」と言われるようになりますように。イエスの御名によって祈ります。アーメン。神の祝福を。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7